



「私の成人への道」 清水 徳次郎

私は、平成22年12月に兄で有り、真愛の会長を見送りまして、自教会の会長職を勤める事になり早や、7年が過ぎ様としているまだ鼻たれの会長です。

この7, 8年の間に様々な出来事がありました。前会長出直し、東日本大震災、大切なようぼくさんの出直し、葬儀、義理の兄の出直し、母親の出直し、並べて話せば、いつの間にか涙が止まらない。そんな自分は、色々な物事を通して成人させて頂いることに感謝させて頂いている毎日です。

よく色々の方に心配して頂きます。「教会の御用、会社の事、忙しいから身体に気を付けて下さい」と、有難いです。不足を言えばきりが無い。不足を言い出せば自分が前に進めない。親神様が、教祖が良い様に連れて通って下さると、朝夕のおつとめに、有難うございます。これしかないのです。生前親で有りました、前会長がよく私に言ってくれた言葉、「やるべき事を、お前頼むぞ」と言われた前会長の言葉、先輩、先人の道を大切にしたい、そんな想いをいつの日か腹に据える事が出来ました。「お前頼んだぞ」、よし任せてくれとリレーで言えばバトンタッチの事有る、任された者が、生きを次まで走るだけの事、応援をする後輩達が、よし次は俺の番だ、私の番だと、道をつなぐ、私はそう言う礎になりたい。

「精神の理によって働かそう、精神一つの理によって一人万人向かう。神は心に乗りて働く。心さえしっかりすれば、神が自由自在に心に乗りて働くほどに。」

およそ、ようぼくの使命は、たすけ一条にある。されば、会長の使命は、常に元忘れずに、自から進んで深く教えの理を究め、心を治めて道の先達となる。

教典の「第九章ようぼく」に、かくして進む成人の道すがらには、雨の日も風の日も有る。その中に日々たんのうの心を治め、治められた誠真実は、自ら他に及び、一人の道は多くの人々の道となる。

私は、教典の「第九章ようぼく」と「第十章陽気ぐらし」を読むのが好きです。本当に進む道には、雨の日も風の日も有ります。

成ってくる理を真摯に受け止めて、教祖五十年の雛型の道を思い、まだまだと自分に言い聞かせ、そして泣きながら楽しむ。そして進む。自分で流した涙が沢山有れば有るだけ、自分の財産で有り、成人させて頂ける力となる。良かったネ、と言え泣き、悲しければ泣き、流した涙が無駄にならぬ様に、進む道を間違わぬ様、日々成人への道を努力したいと私は思います。

4月19日(木)

★婦人会本部第百回総会

国内外から4万人の会員が参集しました。婦人会長の中山はるえ様より元をしっかりと伝え、身近な人、次代を担う人たちを實のようぼくに育てて、創立百十周年の記念総会には、会員一手一つの真実の働きを報告できるように、今日から心して動くことを呼びかけられた



4月29日(祝)

全教一斉ひのきしんデー

快晴の中、船橋市運動公園にて190名の参加者で、精一杯のひのきしんの真実の汗を流しました。



船橋支部の情報をあなたの携帯電話にメールでお届けします。こちらのQRコードからご登録ください。

